



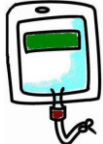


ゲムシタビン+ハーセプチンの治療をお受けになる方へ

★治療スケジュール

症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。()内は抗がん剤の成分名です。

お薬の名前	1日目	8日目	9～ 21日目
吐き気止め	 30分	 30分	お休み
ゲムシタビン (ゲムシタビン) mg	 30分	 30分	お休み
ハーセプチン (トラスツズマブ) mg	 初回は90分 2回目以降は30分	お休み	お休み

★起こりやすい副作用 これらの副作用が、すべての方に起こるわけではありません。

〈血液検査からわかる副作用〉

心障害

心障害の主な初期症状として、階段や坂道をのぼるだけでも息苦しさを感ずる、疲労感が続く、咳が多くでる、手足にむくみが生じるなどの症状があります。

⇒上記のような症状が気になる場合、心臓の病気の既往がある場合は、お知らせ下さい。

白血球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があり、治療開始後7～14日頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を！

白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつきなどの症状としてあらわれることがあります。場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

血小板減少

血小板の数が少なくなることがあります。血小板は出血した時に血を止める働きがあります。血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などがおこりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

〈ご自身でわかる副作用〉

悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。症状に合わせて吐き気止めを使います。ただし、水分もとれない場合は病院へ連絡して下さい。

⇒食欲がなくても、水分はしっかりとるようにして下さい。

インフュージョン・リアクション

投与中から投与後、アレルギーに似た症状が出る場合があります。『寒気』『熱っぽい』『発疹が出る』『息苦しい』『めまい』などの症状がおこった時は、すぐに医療スタッフにお知らせ下さい。

発熱

抗がん剤点滴中～点滴後、一時的に熱が出る場合があります。点滴した日の翌日までに出ることが多いです。

⇒必要に応じて解熱剤を使うことがあります。主治医の指示に従って服用して下さい。

倦怠感

治療開始 2、3 日後に症状があらわれることがあります。また、治療が継続することで徐々に出てくることもあります。症状が強い場合には、お薬で対応することがあります。

⇒無理に動こうとせず、安静にして様子を見て下さい。

血管痛・静脈炎

抗がん剤の刺激によって、点滴中～点滴後に血管に沿って痛みがでることがあります。

⇒痛みや異常を感じたら、我慢せずに医師・看護師にお知らせ下さい。

皮疹・皮膚炎

皮膚が赤くなったり、かゆみをとるようになります。

症状が強くなった場合は、ぬり薬や飲み薬を使うことがあります。

血管外漏出

点滴部周辺に不快感を感じる、赤くなる、痛みがでる、腫れるなどの症状があらわれることがあります。

⇒痛みや異常を感じたら我慢せず、すぐに医師・看護師にお知らせください。症状は数日続くこともありますので、外用薬などが処方された場合は継続して塗るようにして下さい。

★すぐに連絡をいただきたい副作用

- ★「動くと息が苦しい」、「疲れやすい」、「足がむくむ」、「急に体重が増えた」（心障害）
- ★「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」このような症状が急に現れる、または以前から症状があった場合は、症状が急に悪くなる。（間質性肺炎）

※これ以外にも、いつもと違う症状を感じたら病院へ連絡してください。

担当薬剤師